

2014年春学期レポート

今年も日本同様、アメリカでも数十年ぶりの大寒波に見舞われ、北側のミネソタ州ではマイナス40度を記録した。ワシントンDCでも、マイナス10度前後の日々が続き、DCとバージニア州の境界を流れる川幅の広いポトマック川も凍りついたほど。マイナス3度位までしか経験の無い栃木人の私。マイナス10度の世界が想像できず、外に出たら目や肺が凍りつくのではと変な想像をして怖気づいていたが、完全防備をして歩けば問題ないという事を学習したのであった。冬の散歩は、寒いが空気が澄んでいて気持ちが良いものである。

今年の冬は例年より長引き、4月1日にも雪が降り休校になった。4月中旬には、暖かくなるとともに色とりどりの花が次々と咲き始めた街が白やピンクなど彩とりどりに染まった。5月は晴れの日が多く、春を通り越して夏が来たかと思わせるような暑さが続いた。白やピンク色だった木々も、あっという間に深緑へと移り変わり、自然の生命力には毎回驚かされる。天気の良い日には気分転換によく外で課題をやっていたので、うっかり日焼けをしてしまった。

履修クラス

1) 行政コミュニケーション

伝言ゲームをして遊んだことがある人は多いだろう。数人が一列に並び、前から後ろに順番に一人ずつ同じメッセージを伝えていき、メッセージが最後尾まで正確に伝わっているかを競うゲームだ。最後の人に届いたメッセージが元のメッセージと全く異なっており、大笑いしたという思い出はないだろうか。頭に浮かんだイメージを、相手に伝わるよう適切な言葉・表現・構造で伝えることの難しさ。また、人によってメッセージの受け取り方や解釈の仕方が異なること。コミュニケーションの難しさを実感する。効果的なコミュニケーションは日常におけるあらゆる局面で重要なことである。

1対1での会話、会議、プレゼンテーション、レポートやメールなどの文書作成。どこへ行っても人との関わりは避けられない。どこへ行ってもコミュニケーションは不可欠であり、良いコミュニケーションはチームやクライアントとの信頼関係を強めたり、チームのやる気をあげ、組織全体にいい結果をもたらす。このクラスでは、組織内外における効果的なコミュニケーションの方法を学んだ。

2) チームダイナミクス

矢一本は容易に折ることができるが、矢三本まとめてでは折れにくい。――毛利元就
どこへ行っても求められるチームワーク。一人一人が協力し合い団結したとき、チームワークは最大限に機能する。それは一人一人の結果を足し算したものよりも大きな結果を生み出す。口で言うのは簡単だが、実践し、維持させるのは難しい。

このクラス「組織における対人・集団行動」では、「チームダイナミクス(チーム力学)」チームがどうしたら効果的・生産的に機能できるかを学ぶ。チームの目的・タイムラインがはっきりしているか、チームメンバーはそれを理解しているか、それぞれが意欲・目的意識を持って取り組んでいるか、チームメンバーそれぞれの役割分担が明確であるか、コミュニケーションは明確であるか、それぞれが平等に扱われ、それぞれにチームの一員である・貢献しているという感

覚があるか、職場の人間関係や雰囲気の良い悪いなど、助け合える・助けを求めやすい環境が整っているかなど、様々な要素がチームワークの機能に影響してくることを学んだ。また、人は十人十色。一人一人の性格・価値観はそれぞれ異なる。計画を細かく立ててから実行するのが好きな人、アイデアを大まかに固めてから実行し詳細はあとから補う人、物事をはっきり言える人、人の気持ちがよくわかる人、前に出て発言するのが好きな人、裏方でサポートをするのが好きな人、新しい事が好きで創造的な人、伝統的なやり方が好きな人、など、人によって効率的な仕事の取り組み方が異なってくる。自分と相手の強み・弱みを理解し、どう強みを活かすか、どう弱みを強みに変えるか、それぞれを理解する事で自分・相手に合った仕事の取り組み方を考えることができ、職場でのチームワークの円滑化につながる。今月はクラスでMBTIというメソッドを用いて性格診断をし、自分の優先傾向・強み・弱みを分析した。

日本語 MBTI テスト：<http://seikaku7.com/16seikaku/index.php>

英語版 MBTI テスト：<http://www.humanmetrics.com/cgi-win/jtypes2.asp>

3) 事業計画と実施

発展途上国における障害者や社会的弱者のための教育や地域開発に関する事業の計画と実施方法について学ぶとともに、実際に事業計画書を作成するクラス。私たちのグループは南アメリカにあるガイアナのろう教育エンパワメントプロジェクトを計画した。まずガイアナのデモグラフィ、環境、政治体制、経済状況、文化などといった一般情報から調べ、さらにろう人口、ろう者やろう教育に関する政策、識字率、就学率、雇用、ろう団体など、ろう社会に関する量的・質的情報を収集・分析し、リソースや問題を特定する。同様の課題に取り組んでいる団体や過去の事例等も参照し、成果や反省を調べる。それから、事業目的、ターゲットグループ、活動内容、タイムライン、予測できる結果、評価方法、指標、リスク分析、経営計画、予算、サステナビリティプラン、などを書いて事業計画書を作成した。

グループメンバーの誰もが現地訪問をしたことがなく、データはインターネットや現地の人とのメールのやりとりのみで、ガイアナのろう者に関するデータの不足や、計画書作成段階でガイアナろう者が携わることができなかつた面で、ガイアナろう者によるガイアナろう者のための事業計画を作成するのはとても難しかった。しかし、先生の指導やアドバイスを受けながら、ろう者へのエンパワメントと事業のサステナビリティを重視し、なんとか事業計画書を作成することができたと同時に、今後より良い事業計画書を作成するための要素も学ぶことができた。

4) 発展途上国における障害者支援

世界保健機構の世界障害者レポートによると、世界に障害者は10億人(全人口の15%)いるそうだ。これは7人に1人という数字である。そのうち80%は発展途上国に住んでいる。これは、戦争や紛争、飢餓、医療・交通・衛生・教育などのインフラ不足、自然災害、経済危機、悪質なガバナンスなどによるものだ。女性や高齢者、子どもなどの社会的弱者は障害を持つリスクがさらに高いという。(ちなみに、このレポートの概要は日本語版・国際手話版もあります。URL: http://www.who.int/disabilities/world_report/2011/report/en/)

このクラスでは発展途上国の障害者支援に関わる団体や事業、障害者支援に関する政策、条約、データ、などといったリソースを学んだ。障害者を支援する団体や事業は増加傾向にあるものの、医療モデルの事業や、障害者当事者が事業プロセスに携わっておらず、障害者当事者の意見を聞かずに事業実施する団体がまだ数多くあることや、障害者の生活状況把握

やニーズ分析のために必要な統計データが限られていることなども学んだ。国務省、米国際開発庁などといった行政機関や NGO などで現在発展途上国における障害者支援に携わっている人たちから、直接話を聞いたりもした。

5) 経済開発

現在の先進国はどのようにして経済開発してきたのか？ 途上国はなぜ今も貧しいままなのか？ 今日、世界各国内外の経済は綿密に連携しあっており、ハリケーンや地震、洪水、干ばつなどといった自然災害、ウクライナ、トルコ、タイ、ベネズエラでの政治的混乱、インフルエンザや HIV/AIDS などといった感染症の流行、TPP など協定や条約、外国為替ルートの変動、関税や補助金などの貿易政策などの様々な国内外の出来事がそれぞれの国の経済動向を左右する。このクラスでは、国々における経済開発の歴史や、理論、政策等を学んだ。

スーパーボウル観戦

毎年 2 月の第 1 日曜日は全米が熱くなる日、スーパーボウル・サンデー。NFL(アメリカンフットボールリーグ)の決勝戦で、毎年視聴率 40%超を記録するほどの絶大な人気を誇る国民的イベントである。1992 年からは、国歌斉唱の際、アメリカ手話も付くようになり、毎年スーパーボウルが近づくと、今年は誰か誰かと話題になる。今年は NFL 初の難聴選手、シアトルシーホークスのデリック・コールマンが出場することもあり、NFL はろう者から大きな注目を集めていた。今年の手話パフォーマーはろう女優のアンバー・ザイオンであった。家のテレビでルームメイトと観戦したのだが、国歌斉唱の際、ASL が映っていたのはほんの 5 秒程だけ。ガーン。あとから知ったのだが、インターネット中継では終始 ASL が見れたようだ。来年はテレビにも ASL ワイプが付くことを祈りたい。それにしても綺麗な ASL で、見入った。以下はインターネットで中継された国歌斉唱シーンの URL: <https://www.youtube.com/watch?v=snpsG7jmUGM>

TEDxGallaudet

TED をご存知だろうか？ カリフォルニアを拠点とした非営利団体で、様々な価値あるアイデアを世界に広めることを目的としている。毎年行われる TED カンファレンスでは、多くの著名人や斬新なアイデアを持つ人たちよりアイデアが共有され、その動画は 100 言語以上の字幕つきでインターネット無料配信されており、世界中から人気を集めている。日本語字幕のあるプレゼンテーションは 1700 を超える。プレゼンテーションはどれも 18 分以下なので見やすいのもポイントだ。現在は TED にインスピレーションを受けた団体が独自の TED カンファレンスを開催できるという、TEDx プログラムがあり、世界各地で開催されている。TEDxTokyo がその例である。その TEDx が 2 月にギャロデットでも開催され、ギャロ大職員・学生のもつそれぞれの創造的なアイデアが共有された。TEDxGallaudet の動画はこちら(アメリカ手話、英語字幕のみ)。 https://www.youtube.com/results?search_query=tedxgallaudet

春学期を振り返って

春学期は、1 クラスを除いて全クラスで、学期を通してグループで課題に取り組むグループワークがあった。スケジュールの調整や意見のすり合わせ、タスク分担やまとめなど、個人でやるよりも大変な面があったが、いいチームメンバーに恵まれ、それぞれの考え方や視点、知識、スキル、経験を、うまく総和させ、チーム一体となって課題に取り組めた。春学期が終わる頃に

は、チームメイトとの信頼関係もより深まり、ピークの時にはお互い励まし合ったりしてモチベーションを維持しあい、精神的にもサポートしてもらった。

夏休み

夏休みは、DCにある全米障害者評議会(National Council on Disability)で実習をした。全米障害者評議会は15人の障害分野専門知識を有する評議員と11人の事務局スタッフから成る独立連邦機関で、大統領、国会、他連邦機関等に障害者政策について助言や提言をする。障害者政策に関する書類を読んでレポートの作成や、障害者政策に関する会議・審議に出席し、障害者に関する政策形成過程の理解を深めることができた。

◆◇奨学金支援終了◇◆◇

2014年5月をもって、5年間の奨学金支援が完了した。2008年10月に5期奨学生として選出されてから今日までの5年半、日本財団と日本ASL協会をはじめ、多くの方々にひとかたならぬご支援・ご協力・ご声援をいただいた。おかげさまで、大変有意義な留学生活を送ることができ、2013年5月にはギャロデット大学ソーシャルワーク学士号を取得し、大学院(行政学と国際開発学)にも進む事ができた。振り返ってみると、苦労もあったが、貴重な経験をたくさん積むことができ、また、大きく成長させていただいたと感じる。心よりお礼申し上げたい。大学院卒業予定は2016年春。卒業後日本またはアジアのろう社会に貢献できるよう、一日一日を大切に、多くを吸収していきたい。今後とも変わらぬご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

第5期生 川俣郁美



家の近くのイチョウ



DCにあるロッククリーク国立公園